



資料はこちらから

9年間を見通した安全教育の推進  
～自助・共助の力をはぐくむために～



自助の力を高め、自分で安全な行動ができる児童の育成

● 仮説 ●

- ・学校安全の3つの柱である「生活安全」「交通安全」「災害安全」に関する学習の9年間の学びを整理し、系統的に学習を進めることで、自助の意識を段階的に高めていくことができるのではないか。
- ・特別活動の授業を要として、各教科や学校行事、学校生活等様々な活動の中で指導していくことで、正しい行動を考え、実行できる力を育むことができるのではないか。

目指す児童生徒像の実現に向けた3つの柱

視点①

安全教育の系統性を意識した授業づくり

系統表を基に授業のねらいを明確にし、9年間を見通して安全への意識を高めるとともに、自分の行動目標を立て実践していくことができるようにしていく。

視点②

安全に対する意識を高めるための環境整備

教室掲示・廊下掲示を整えたり、委員会活動、児童会活動での取組を推進したりすることで安全意識を高め合えるようにしていく。

視点③

中学生・中学校教員との連携

教職員同士の相互派遣や小・中学生の関わりを行うことで質の高い授業を行うことができるようにしていく。



# さいたま市小・中一貫教育の基本方針を実現するための実践

## 安全教育の系統性を意識した授業づくり

- 安全教育について、各教科における内容やねらい、時期等を明確にした一覧表を作成し、教育活動全体を通して、「生活安全」「交通安全」「災害安全」を段階的に取り組めるようにしている。
- 系統性を確認し、低・中学年には「自助」の意識を、高学年には「自助から共助」の意識をもてるようにすることを目標として授業実践に取り組んでいる。
- 学級活動（2）では、学年ごとに付けたい資質・能力を明確にしている。児童が現状の課題を自分事として捉えるようにするとともに、一人ひとりが改善するための行動を考え、実践していくことで安全意識を高められるようにしている。

学年	生活安全	交通安全	災害安全
1年	生活安全		
2年	生活安全		
3年	生活安全		
4年	生活安全		
5年	生活安全		
6年	生活安全		



## 安全に対する意識を高めるための環境整備

- 校内で安全な行動をとることができるように、掲示物を作成して意識付けを行っている。また、代表委員会では子ども同士で声を掛け合ったり、時間を守る放送を流したりすることで自助の意識を育てている。
- ヒヤリハットの場面を紙芝居として知らせる資料を作成し、学期ごとに提示することで危機意識を高めている。
- 校内の学年掲示板に、安全に関する掲示を計画的に行うことで、学習したことを全体に表現できるようにしている。



右側歩行を意識するための足跡の活用

## 安全に関するアンケート結果

☆R3年度からの安全アンケートの結果と比較して、  
「学校の決まりを守っている」  
94%（R3）→ 90.4%（R4）→94%（R5）  
「安全に気を付けて生活している」  
95.2%（R3）→94.9%（R4）→96%（R5）  
と、肯定的な回答が増えた。

☆保健室来室児童数は、R3年度から、  
881人（R3）→664人（R4）→670人（R5）  
と、意識の高まりとともに怪我をする人数も減少が見られる。

- 校内の掲示や指導から、安全に対する意識を高めることができた。
- 登校時は、通学班長を中心に怪我や事故無く安全に登校できている。
- 怪我をする人数としては少なくなっている。更に少なくしていくために、知識を行動につなげるための手立てを講じる必要がある。
- アンケートの結果から防犯や災害に関して保護者と話し合っている児童が少ないので、家庭と連携を図る必要がある。

## 中学生・中学校教員との連携

中学生と連携した授業を行い、小学生には「自助」、中学生には「共助」の意識をそれぞれ高められるようにしている。  
救急救命の授業では、T2として胸骨圧迫の指導を手伝ってもらったり、安全に関する授業ではビデオメッセージを活用したりすることで、安全への意識を高められるようにしている。

- 子ども会議
  - 小・中合同引き渡し訓練
  - 明日も進むいのちの日
- 等の行事を通して子ども同士の意識を共有したり、共通した活動をすることで一貫した指導ができるようにしたりしている。